

## 国内グループ会社

### ゼオンメディカル

#### 会社紹介

ゼオンメディカル株式会社は日本ゼオン株式会社の医療事業を継承して、1989 年に100%子会社として設立されました。

日本ゼオンは、自社固有技術の複合による新素材、特に生体適合材料の活用による医療機器の開発を続けてきました。その典型として、1990 年 1 月、「補助人工心臓」が厚生省(当時)の製造承認を得ました。これは、世界初の快挙でした。

その「補助人工心臓」の販売を行うべく、当社は 1990 年 1 月に営業を開始。1996 年 7 月には、輸出および研究・開発・製造部門の運営を日本ゼオンから移管し、名実ともに医療機器メーカーとしての一貫体制を整えました。その後、事業分野の拡大を図り、日本の国産メーカーとして、主に循環器系・消化器系の医療機器の開発・製造・販売を行ってきました。

医療技術は絶えず進歩し、医療を取り巻く環境も大きく変化しています。その中で、当社の社員一人ひとりが医療の世界に関わる人間として責任感と使命感をもって、顧客にご満足いただける独創的な医療機器の開発・改良を続け、システム、サービスの提供を進めていきます。

当社は患者様の大切な生命を守るために、医療を提供されている医師や技師、看護師の方々が安心してご使用いただける、安全で高品質な製品をお届けできるように取り組んでいます。

研究所は高岡工場内に併設しており、設計段階から製造部門と連携し、効率的な生産で安定した品質を確保できるような設計・組立て方法を目指して開発に取り組んでいます。



澤 宗樹社長



ゼオンメディカル研究所・工場



#### 環境安全活動

##### 1. 環境負荷削減の取り組み

PRTR 法の対象化学物質の排出量に削減目標を設定して、廃棄物質のマテリアルバランスを整理し、環境への影響度を継続測定していきます。今後は、排出量自体を削減させる方策を推進していきます。

2011 年度の年間電力使用実績 1,308,539kWh に対し、2012 年度は 1,530,343kWh と増加しました。電力削減は実施していますが、それ以上に研究棟を新設し、電力使用量が増えていることが原因と考えています。

また、環境に優しい製品設計を目指し、製品梱包材の削減、一体成型による部品点数の削減など、廃棄物削減に取り組んでいます。

安全活動においては、日常の 4R-KYT<sup>※1</sup>、ヒヤリハット<sup>※2</sup> 活動などに加え、大地震・大津波を想定した避難訓練を実施し、社員の安全確保に努めています。

※1 4R-KYT

4 ラウンド危険予知活動。職場や作業の状況のなかにひそむ危険要因とそれが引き起こす現象を小集団で話し合い、考え合い、分かり合うことで行動する前に解決させる危険予知手法の 1 つで、手順が 1R(ラウンド)から 4R に分けられていることから 4R-KYT と呼ばれている

※2 ヒヤリハット

ヒヤリハットとは、ヒヤリとしたり、ハッとしたりするなど、事故になりそうだった事柄のこと

## 2. 環境関連データ

ゼオンメディカル(株)		2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
PRTR 法対象物質	対象物質数	1	1	1	1	1
	使用量(トン)	1.1	1.5	2.3	2.2	1.6
	排出量(トン)	1.1	1.5	2.3	2.2	1.6
産業廃棄物	減容前発生量(トン)	5.0	5.4	7.6	22	10
	埋立処分量(トン)	5.0	5.3	7.6	11	5.0
水資源(工業用水+地下水+上水道)使用量(千 m <sup>3</sup> )		-	-	-	12	14.3
CO <sub>2</sub> 排出量(トン)		1,000	969	970	969	1,143
エネルギー使用量(原油換算、kL)		412	472	462	431	511

### 地域との共生活動

ゼオン高岡グループの活動として、近隣の国分浜および氷見海岸の清掃奉仕活動、近隣地区のゴミゼロ活動に参加しました。

また、富山県の医療機器産業育成への活動として、県西部地区医療機器育成協議会に幹事メンバーとして参画。またビジネスマッチングにて北陸地方の企業とのヒヤリングを行い、その後個別の打ち合わせを持ちビジネスの検討を進めています。

研究開発においても、富山工業技術センターの研究会に参加し、地域企業との連携による開発を進めています。